

令和5年度旭川未来会議2030 障がい者スポーツ分野 第3回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年8月17日（木） 午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 開催場所 旭川市障害者福祉センターおびった2階 会議室3
(旭川市宮前1条3丁目3番地7号)
- 3 出席者（参加者） ※敬称略，五十音順
赤堀 達也，麻生 早苗，阿部 龍雄，五十嵐 真幸，内村 隆一郎，今野 征大，高田 朋枝，
塚田 鉄平，二條 実穂
- 4 出席者（市側）
(運営事務局)
福祉保険部 高越次長
障害福祉課 遠藤障害事業係長，障害事業係 田中，大谷
スポーツ課 松田課長，大野主査
(統括事務局)
広報広聴課 乙坂広聴係主査
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 意見交換等
第2回会議の参加者からの意見をまとめた報告書（素案）を共有し，意見交換等を行った。

【報告書（素案）内容】

- 旭川のパラスポーツの歴史
- 旭川市における障がいのある人の状況
- 4つのカテゴリに分けて現状と課題を分析
 - ・ パラスポーツ推進の基礎的条件整備
 - ・ レクリエーションスポーツの普及
 - ・ 競技水準の向上等
 - ・ 連携・協働関係等の構築
- 提言や説明内容等

(1) 報告会での発表内容について

ア 「旭川のパラスポーツの歴史」，「旭川市における障がいのある人の状況」，「4つのカテゴリに分けて現状と課題を分析」

(参加者)

- ・ 2024年に、デフリンピックの国際大会が日本で開催される。
- ・ 障がい者スポーツ＝（イコール）パラリンピックだけではなく、デフリンピックのことについても取り上げてほしい。
- ・ スペシャルオリンピックスのことについても取り上げてほしい。

(参加者)

- ・ さらに、過年度の世界大会で活躍した選手も記載した方が良いか。

(参加者)

- ・ 協会等の名称は、正式名称で表記した方が良い。

(参加者)

- ・ グットマン博士等の古い歴史については、触れなくて良いと思う。
- ・ 現在の国際大会の状況等の説明程度で良いと思う。

(参加者)

- ・ 旭川市における障がいのある人は多い方なのか。

(参加者)

- ・ 特別支援学校在籍者数及び学級在籍者数については、報告資料に盛り込んだ方が良い。
- ・ 近年、増え続けている現状は共有した方が良い。

(参加者)

- ・ 特別支援学級の在籍者には、症状が落ち着いて普通学級に移る生徒もいる。

(参加者)

- ・ 発達障がいの方は、普通学級に在籍しているケースが多いため、このデータには含まれていない。

(参加者)

- ・ 過去5年、10年の経過をたどったとき、在籍されている特別支援を必要としている生徒数が増えてきていることを記載すると良い。
- ・ 教育機関の説明は必要である。
- ・ 旭川市障害者福祉センターおびったが開所したときと現在の障がいのある方の状況を比較することによって、施設等の過不足を把握できる。
- ・ 旭川市で実施した全国大会の参加者や種目等を加えると良いかもしれない。

(参加者)

- ・ 報告会で発表する目的を確認したい。

(事務局(障害福祉課))

- ・ 旭川未来会議2030は、市民が主体的にまちづくりに参画し、「2030年の旭川」のあるべき姿について議論し、市がここから得られた意見を旭川の未来に向けた取組として推進することを目的としている。
- ・ 旭川未来会議2030は、6分野において議論された検討結果について、市長へ報告することになっており、6分野の報告内容については、市長も特に注視しているところである。
- ・ 報告内容については、市長も把握した上で、提案いただいた内容に関して具体化を図っていく考えであるが、提案した内容や必要な予算規模により、検討や実現に要する時間が異なるため、着手できるものから順次取組を進めることになる。
- ・ 今回の報告会に限らないが、市長の意向は総合政策部等で精査され、予算を確保することになる。
- ・ 参加者からの忖度のない率直な意見は、市長が一番知りたいところであり、チャンスかもしれない。

(参加者)

- ・ もう少し頑張ればできそうなこと等を提言した方が良いか。

(事務局(障害福祉課))

- ・ 参加者の皆様から頂いた、本市の多くの課題については、今回の提言にかかわらず、本市が受け止めなければならない内容と思っている。
- ・ 提言内容については、参加者の皆様が提言したい内容で問題ない。

(参加者)

- ・ これまでに積み重ねてきたことについては、市長や関係部署以外の部署にも知ってほしいところである。
- ・ 今後、提言する内容や本市の課題を解決するためには、スポーツ課や障害福祉課だけで解決できることではない。
- ・ 市長や一部の市職員は、大会やイベント等に来場することはあるが、それ以外の者は何となく知っている程度であるため、この旭川未来会議2030障がい者スポーツ分野の報告内容については、もっと認知度を上げるためのチャンスだと思う。
- ・ これまでの意見の中にもあったとおり、旭川市がパラスポーツ・障がい者スポーツに積極的な取組をするためには、市民の理解・恩恵等を明確にして、全ての市民に利益等があり、納得できる形にしないと、旭川市が責任を持った取組ができない。
- ・ 色々な考えの人がいる中、まずは報告会に来ている人が納得できるものである必要はある。
- ・ 第4次旭川市障がい者計画の中にあるスポーツやレクリエーションをしている者の割合と、前回スポーツ課からの報告があった割合に差が生じているのはなぜか。

(事務局(スポーツ課))

- ・ 前回お知らせした割合は、旭川市スポーツ推進計画の割合になる。

(参加者)

- ・ 16団体で構成されている障害者連絡協議会で把握している内容を、この場で共有したい。

- 障がい者スポーツの認知度は高くはない（浸透していない）ため、周知が必要である。
- 本市で行っているサークルや大会等を含めた情報誌等がない。
- 出前講習会等は、効果的な取組である。
- 市が実施している障害者スポーツ振興事業等については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、事業が縮小している。
- パラスポーツ・障がい者スポーツをする人達の分母を広げること（底辺の拡大）や啓蒙には、市が実施している障害者スポーツ振興事業等を活用すると良い。
- 障害者スポーツ振興事業等を充実・拡充させることによって、効率的かつ効果的な取組ができ、活性化につなげやすい。

（参加者）

- ・ 報告書としては、文字数が多すぎる。
- ・ 各分野の持ち時間は10分であるため、端的に分かりやすいデザインにすると良い。
- ・ 報告書の内容については、市民が「市はどの程度本気をするのか。」と思わせるような内容にしたい。

（参加者）

- ・ 資料の添付は時系列ではなく、提言したい内容に準じて、資料を添付した方が見やすい。

（参加者）

- ・ これまでの意見の中にもあったとおり「市民にとってどのような利益があるのか」を伝えないと、「また、うるさいことを言っている。」ということになり、本当に伝えたいことが伝わらなくなる。
- ・ 例えば、そのパラスポーツが普及することによって、スポーツ人口が広がるとか、〇〇のスポーツ産業の発展に結びつくとか、〇〇の分野等における経済効果がどの程度あるとか、人口増加の足がかりになるとかが前提にあると良い。
- ・ これまでの意見は、報告会で発表する内容というよりも、その次の段階で出した方が良い意見が多くあったかもしれない。

イ 提言や説明内容等

「公共施設やスポーツ施設等のユニバーサル化」

「市を中心とした情報発信ネットワークの構築」

「教育に、パラスポーツ教育の導入を」

（参加者）

- ・ 教育現場における在学学生やその家族の理解が広がるような取組を入れたい。

（参加者）

- ・ 一般的なスポーツとの一体感を作ることが大事だと思う。
- ・ 一般的なスポーツと一体的に行うことによって、ネットワークの充実、施設のユニバーサル化や教育現場でのパラスポーツ教育導入につながる。

(参加者)

- ・ スポーツの日等に全ての関係者が集まって、イベント等を行うことによって、事前準備等をとおして、自然とネットワークの構築や各課題の解決につながる。

(参加者)

- ・ 教育現場にパラスポーツ・障がい者スポーツを導入することについては、市長の意識が高いと思う。
- ・ 教育現場をツールとして、環境整備やネットワークの構築等に発展させる方法もある。

(参加者)

- ・ 教育現場に導入する前に、まず、やることがある。
- ・ まずは、市の中での一体感である。
- ・ 「パラスポーツ・障がい者スポーツが必要なんだ。」と思ってもらってからである。
- ・ いくらスポーツ課や障害事業係から教育委員会等に働き掛けたとしても、今の状態のままであれば同調しないと思う。
- ・ 市がネットワークの中心となっていくためにも、共通認識がないと成り立たない。
- ・ そのためにも、市の新しい係が必要なかもしれない。
- ・ 市の中での認識が統一されていない。

(参加者)

- ・ 教育現場でパラスポーツ・障がい者スポーツの必要性を認識してもらうことが大事だと思った。
- ・ 講義内容が本当に素晴らしければ、教員の認識も変わり、良き支援者になる。
- ・ また、講義を受けた生徒が親に授業の内容を話し、その親が学ぶパターンもあり、波及効果が大きいと思う。
- ・ 障がい者等に係る授業があるため、そこにパラスポーツ・障がい者スポーツを組み込んでもらうのも良いと思う。
- ・ この両方から攻めるのも良い。

(参加者)

- ・ 教育の現場を変えることは非常に難しい。
- ・ まずは、参加者とスポーツ課と障害福祉課の職員が変えられるところから始めることが大事だと思う。
- ・ スポーツ課と障害福祉課の中で変えられることを始めてほしい。
- ・ この会議で取り組めることというのは、こういうことだと思う。

(参加者)

- ・ この会議は「市長に、市として何かをやってください。」という提言ではなく、「自分達はこのことができます。」という視点で、「だから一緒に協力して、市も協力してください。」という方が良いのか。

(参加者)

- ・ 市にやってほしいことはいくらかもある。
- ・ 今回は、市にやってほしいことを伝える会議ではないような気がする。
- ・ 今回の参加者の意見を聞いて、スポーツ課と障害福祉課で取りかかれることを見つけて、まずはそこから始めることだと思う。
- ・ 今回の会議が終了した後も、関係者が取り組む内容は変わらない。
- ・ 市内の関係者の連携を行っている中に、市が入って一緒になってやっていくだけの話である。
- ・ スポーツ課と障害福祉課がこれから「こんなことを取り組んでいきたいです。」と打ち出すことが重要だと思う。
- ・ 参加者が「いったい市はどれだけ本気で取り組んでくれるのだろう。」と考えるのはそこだと思う。

(事務局（スポーツ課）)

- ・ 今取り組めることから始めることは、良いことだと思う。
- ・ メッカという将来像を考えた時に、教育現場での取組を重要視する提言があっても良いと思う。
- ・ 意見（提言）は、幅広くあって良いと思う。
- ・ 報告書（素案）に、係を作る提案もあったが、実際の人件費等を考えたときに現実的ではないと思われるため、関係する団体等に業務を委託することも想定した幅広い提案をした方が良いかもしれない。
- ・ 情報交換や情報発信等についても、ホームページやSNS等を活用した取組が中心であり、本市が取り組む必要がある場合は、先程もお伝えしたとおり、関係する団体等に業務を委託することも想定できる。

(参加者)

- ・ 関係する団体間での連絡調整等がうまくいかないため、課題として取り上げられている。
- ・ 関係する団体には指導者がいないために情報が行き渡らないこともある。
- ・ SNS等をみることができない方もいる。

(事務局（スポーツ課）)

- ・ 参加者の意見として報告するのであれば、それはそれで良いと思う。

(参加者)

- ・ 静岡県では、軌道にのってから業務委託している場面が多い。
- ・ 初めは市で取り組んだ方が良い。

(参加者)

- ・ これを機に、市がパラスポーツ・障がい者スポーツに関わる時間が増えるだけでも違うと思う。
- ・ 市の他部署の職員がボランティアからでも良いので関わってほしい。

(事務局(スポーツ課))

- ・ おっしゃるとおりである。市がパラスポーツ・障がい者スポーツに関わる時間を増やすことが重要であり、必要と思う。

(参加者)

- ・ この会議をとおして、自分達のやることは変わらないと思う。
- ・ 既存の取組の充実や拡充ではないかと思う。

(参加者)

- ・ これまでの意見を聞いて思ったことは、メッカに向けた取組として、教育分野があると良いと思った。
- ・ 教育機関を含めた一般市民向けに、パラスポーツ・障がい者スポーツのボランティア等に関わるハードルが高いと思う人向けの講習会や勉強会等を開催した方が良い。
- ・ 市の職員等から取り組めると良い。

(参加者)

- ・ 「スポーツ課と障害福祉課が関わる」程度の表現の方が良いか。

(事務局(スポーツ課))

- ・ それでも構わないし、事業内容等が限られた部署や関係者等に絞られる印象を避けるのであれば、「市が中心となって」とかの方が良いかもしれない。
- ・ 具体的に何をやるのかを提示した方が良い。

(参加者)

- ・ この報告会は、市長にアピールする良い機会である。
- ・ スポーツ課と障害福祉課が取り組めることから始めるということを提言するのも良いかもしれないが、その場合においても市としての方向性(方針)や他部署の理解があって課の取組につながるのではないか。
- ・ スポーツ課と障害福祉課だけでは限界がある。
- ・ やはり、公共施設や教育機関との連携・協働については提言した方が良い。
- ・ さらに大会や合宿を誘致することによって、経済的な効果があること等をアピールできると良い。

(参加者)

- ・ 市の公共施設のバリアフリー化は進んでいない。
- ・ アピールできるのであれば、今回は良いチャンスである。

(参加者)

- ・ 時間の都合もあるので提言は、3つ程度で良いのではないか。

(参加者)

- ・ 市の各部署やパラスポーツ・障がい者スポーツの関係者等が一堂に集まって話し合う場があると良い。
- ・ 過去に、経済界を中心に行った旭川障害者スポーツ振興支援会のような形で集まると良い。

- ・ このような取組の中で、ネットワークを形成し、課題の把握や解決策を見つける方が良い。
- ・ 毎年開催することができると良い。
- ・ まずは、一体感を作ることが必要であり、この一体感を作ることによって、教育や施設といったこれまでの参加者からの意見等に結びつくと思う。

(参加者)

- ・ ここにいる参加者は、市が策定した参加要件をクリアして集まっている。ある一定程度の信頼を得ていると思っているので、市としての方向性（方針）や他部署の理解を得られた後の提言まで行った方が良いと思う。
- ・ 特に具体策については、提案をした方が良いと思う。市の各部署で話し合うときも前に進みやすくなる。
- ・ 関係者間での情報発信の課題等は、提言した方が良い。

(参加者)

- ・ 旭川障害者スポーツ振興支援会の目的は、「パラリンピックに出場する選手を応援しよう。」であったと思う。
- ・ 一堂に集まって何かをするのであれば、主催者が誰であれ、目的は明確にした方が良い。
- ・ 例えば、スポーツの日を盛り上げる取組を行うため、一堂が集まるのも方法の一つであると思う。
- ・ さらに、1年程前から準備することによって、自然にネットワークが作れ、地域課題も共有しやすくなる。
- ・ 市には経済的な支援ではない、信頼という「力」を貸してほしい。
- ・ 市にもできることと、できないことはあるため、過度の期待はしない方が良いか。
- ・ 提言をしても何も変わらないことも想定される。

(事務局（障害福祉課）)

- ・ 先程、スポーツ課が例として話した「市が関係団体等に委託する場合」についての補足になるが、本市が委託する事業においては、参加者の皆様からの御意見のとおり、委託者である市の「考え・思い・心」がないと充実した取組にならないと考えている。
- ・ スポーツ課と障害福祉課が関わるようになって10年が過ぎようとしている中で、市と関係者との連携が思うように進んでいない中、提言しても何も変わらないと思われる気持ちは察していたところである。
- ・ この会議は、市が事務局となって、参加者の意見を市長に届ける初めての試みであるため、忖度することなく、提言したい内容を議論してほしい。

(参加者)

- ・ こういうときだからこそ、予算を必要とする取組と多くの予算を必要としない取組の両方を提言した方が良いと思う。
- ・ 3つの提言については、とても難しいところではあるが、このような機会に提言した方が良いと思う。

(参加者)

- ・ 私も同意見である。
- ・ さらに、「このような効果がある。」等を付け加えることができると良いと思う。
- ・ 報告書の内容については、バイアス等をかけずに整理すると良い。

(2) 報告会での発表者について

発表者については、今野氏が推薦され、今野氏も承認した。

※ 今野氏が発表できない状況となった場合には、参加者で協議を行って発表者を決定することとする。

8 第4回分野別会議の検討内容

報告会での発表内容や報告会での発表者等について

以上